

年頭のご挨拶

(一社) 山梨県自動車整備振興会会长

山梨県自動車整備商工組合理事長

小林達也

新年明けましておめでとうございます。

平成31年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年はアイメッセ山梨において山梨県自動車整備技能競技大会を開催しました。大会には全18支部が参加し、南巨摩北支部が優勝し、本年11月に東京ビッグサイトで開催される全日本自動車整備技能競技大会への切符を手にしました。南巨摩北支部2名の選手のご検討をお祈り申し上げますとともに、皆様方のご協力により無事開催できましたことに感謝申し上げます。

さて、昨年の我が国の経済状況は緩やかに回復が続きましたが、地方では未だ回復には至っておりません。そのような中で秋には第四次安倍改造内閣が発足し、政府与党には実感できる景気回復を期待するところであります。

一方、自動車整備業界においては、平成29年度版自動車整備白書によると総整備売上が5兆4,800億円、対前年930億円増で3年ぶりに増加しました。

こうした中、最近の自動車は優れた安全・環境性能が求められ、安全面では衝突被害軽減ブレーキやペダル踏み間違え時加速抑制装置等安全運転支援システムの搭載など、いわゆる国が推奨しているサポカーが急速に普及し、更には自動運転技術の研究も加速して進められています。

環境面では政府において、日本の新たな自動車戦略として、2050年頃にはハイブリッド車や電気自動車等「電動車」にする目標を盛り込む方針など、整備需要の変化も予想されます。また、運転支援装置には欠かせないエーミングも重要な作業となってきます。

今後はこれら自動車の高度化に対応した整備技術の習得や整備士の人材確保などが喫緊の課題となっております。また、2024年から導入予定の継続検査時にOBDを使った検査への対応も課題となってきます。

本年も山積した課題解決に向けた活発な取り組みが求められます。

業界活性化につきましては、自動車点検整備推進運動や不正改造車排除運動などを積極的に展開し、電子技術搭載車の性能維持等点検整備の重要性や自動車検査証備考欄に記載の点検整備実施状況等について、より一層の周知を図るなど定期点検整備実施率向上に取り組むとともに確実な点検整備の実施と入庫促進に努めます。

技術向上については、高度な電子技術に対応するため、スキャンツールの研修や整備技術向上研修等の充実強化、さらにはエーミング研修の実施等技術レベルの向上に努め、併せてコンピューター・システム診断認定店の普及と整備技術情報提供システムFAINESの有効活用にも努めて参ります。

整備士の人材確保につきましては、引き続き運輸支局と連携を図り、高校訪問活動や職場体験への支援等、若年整備士の確保に向けた取り組みをして参ります。

継続検査のOSSについては、上部団体や関係機関等と連携を図り、導入拡大に向け取り組むとともに、今後導入が計画されている軽自動車についても注視し対応して参ります。

また、自動車関係諸税の負担軽減に向けた見直しや業界の諸課題解決については整備議員連盟を通じ要請を行うとともに、その状況などについて情報提供して参ります。

商工組合につきましては、引き続き予備検査場の適正管理等に努め、組合員の利便性向上や利用促進を図って参ります。また、併せて有益商品の研究と提供を行って参ります。

今後も会員組合員の活性化と経営基盤の確立に向け取り組んで参りますので、皆様方のより一層のご理解ご協力を賜るようお願い申し上げます。

最後に、関係ご当局、関係機関のご指導とご協力を賜りますとともに、皆様のご発展を心より祈念し、年頭のご挨拶とさせて頂きます。

平成31年年頭の辞

関東運輸局山梨運輸支局

支局長 森下 義幸

新年おめでとうございます。

平成31年年頭にあたり新春のご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、9月の北海道胆振東部地震、相次ぐ大型台風の上陸による河川の氾濫や土砂崩れなど、数多くの自然災害が発生し、各地に甚大な被害がもたらされました。山梨県においても、台風の上陸により交通機関の混乱が生じる等、県民生活に大きな混乱と支障が生じました。

山梨運輸支局といたしましては、社会・経済の情勢を常に年頭に置き、地域公共交通機関の利用者の安全・安心の確保に向けた各種施策を積極的に推進し、現場の行政執行機関としての責務を果たす所存であります。

それでは分野ごとに、山梨運輸支局が取り組む主要施策と所感の一端を申し上げます。

図柄入りナンバープレートにつきましては、ラグビーワールドカップ2019日本大会や東京オリンピック・パラリンピック競技大会の特別仕様ナンバープレートに加え、昨年10月より“走る広告塔”として、葛飾北斎の「凱風快晴」をモチーフにしたナンバープレートが富士山ナンバー地域で交付開始となりました。山梨運輸支局といたしましては、より多くの方に取り付けていただけるよう、自治体と協力し更なる普及に努めてまいります。

自動車の検査につきましては、国民生活の安全・安心を確保する上で重要であり、特に安全性の確保や環境の保全は何よりも優先されるべきものです。不正改造車の排除とともにナンバー読み取り装置を活用した無車検運行の是正を行い、安全・安心な自動車社会を構築し、国民からのニーズに応えて、引き続き関係機関との緊密な連携を図り街頭検査を実施してまいります。

継続検査のワンストップサービス（OSS）につきましては、申請に当たっての事務負担の軽減が図れることから、その活用促進を図り、引き続き OSS の利用者利便性の向上に向けた取り組みを行ってまいります。

自動車の点検整備につきましては、自動車の安全・環境に関する性能の保全や安全・安心な車社会の維持のために重要であります。

本年も引き続き、関係機関と連携して「自動車点検整備推進運動」や「不正改造車を排除する運動」を積極的に展開し、点検整備の重要性を啓発してまいります。

自動車整備事業につきましては、自動車の安全性の確保を図るため、悪質な違反行為に対して効果的な監査を実施し、その健全な発達に資するとともに、自動車の高度先進技術に対応した整備技術の向上を図ってまいります。

さらに、自動車整備士の人材確保対策につきましては、関係機関と連携を強化し、高等学校への訪問等、引き続き積極的に行ってまいります。

以上、新年を迎えるにあたり、山梨運輸支局における施策、所感の一端を申しあげましたが、これらの実効性を高めるためには、山梨県、交通事業者等をはじめとする関係者と連携した一体的な取組を進めが必要不可欠であります。

今後とも、山梨運輸支局の行政の推進に関し、皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げまして、私の新年の挨拶とさせて頂きます

新年のご挨拶

軽自動車検査協会山梨事務所

所長 木村 健二

新年明けまして、おめでとうございます。

平成31年の新春を迎えるにあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

平素は、軽自動車検査協会の業務運営に対しまして、ご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

まずもって皆様方に、お詫びしなければならないこととなりました。平成31年1月の運用開始に向け準備を進めてきたOSSですが自動車関係団体による代理申請を可能とすべく、国土交通省と連携し、関係制度の改正に向けた調整を行ってまいりましたが、調整になお時間要する状況となり、OSSの運用開始時期を延期することとなりました。

誠に申し訳ございません。しかしながら電子申請化の大きな流れは変わりありませんので、開始時期が決まり次第改めてお知らせいたします。

さて、山梨県内の保有台数状況は昨年11月末現在337,077台（対前年比プラス1900台（約1%））と、ここ数年の間は微増傾向にあります。全国の2018年度上期の新車販売台数も前年同期を少しですが上回る結果となり、上期として2年連続のプラスを確保していることです。このうち登録車は4年ぶりに減少し、軽自動車は2年連続の増加となり軽自動車が登録車のマイナスをカバーした結果、新車販売台数全体に占める軽自動車比率は約40%に迫る勢いとなりました。 総合順位トップ10のうち登録車が3車種、軽自動車が7車種で「軽高登低」などという見出しが紙面にも載っていました。

軽自動車は、使いやすく環境にやさしい経済的な乗り物として、県民の日常生活を支えています。全国の平成29年度の継続検査台数についてみてみると、対前年度比で1.9%増加していくて平成26年度は減少したものの、その後は増加に転じ1,100万台を突破しており、このうち指定整備率は67.8%で検査協会への持込検査台数は0.8%増加しています。

また、最近の軽自動車には交通事故防止対策や被害軽減対策としていわゆる「自動ブレーキ」が搭載された高機能車両も多く、こういった機能の点検・整備も重要かつ高度になっていることから、ますます皆様方のご活躍を期待申し上げる次第です。

当事務所も、昨年7月より始まったピット改修工事が今月末には終了し、新しい検査コースでの検査が開始されます。今後とも、軽自動車の安全性確保、公害防止等の環境保全を図るため、厳正、公平な検査を行うとともに、職員一丸となって利用者に対するCSの向上を推進して参りますので、皆様方のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

結びにあたり、山梨県自動車整備振興会並びに会員の皆様方の益々のご繁栄をご祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。